

東邦大学医療センター佐倉病院小児科専攻研修プログラム

佐倉・選択専攻科目

放射線科（1～6ヶ月）

1 目的と特徴GIO

放射線診断（神経放射線および全身）、血管内治療（IVR）、放射線治療について参加型研修する。

2 プログラム管理運営体制

東邦大学医療センター佐倉病院放射線科の医局会議にて、本プログラムの管理、運営を検討する。プログラム内容や運営に問題が生じたときは合議の上で修正や変更を行い、医局長が最終承認を行う。必要に応じて指導医を対象とした会を開催して情報の伝達やアドバイスをを行う。

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は1～6ヶ月間である。

東邦大学医療センター佐倉病院放射線科及び中央放射線部に配置される。指導医の下で各診療科の患者の放射線診断、血管内治療（IVR）、放射線治療に従事する。基本的にすべて実習形式の参加型研修となり、実践を通して放射線診断、血管内治療（IVR）、放射線治療について学ぶ。

3-2 行動目標 SBOs

（3-2-1）放射線についての専門知識を習得し、放射線防護の基礎について理解できる。

（3-2-2）各診療科の患者の疾患、症状、状態に応じてリアルタイムに適切な検査方法、撮像方法、撮像範囲、造影剤の使用の有無を判断し、各診療科の役にたつ画像を作成し、診断することができる。

（3-2-3）放射線技師、看護師等と円滑なコミュニケーションを図り、患者に最適な検査方法を選択し指示をすることができる。

（3-2-4）各診療科から依頼された画像についてレポートを作成し、必要に応じて追加検査や治療方針などのアドバイスをを行うことができる。

（3-2-5）放射線診断で必要となる画像解剖、病理学、生理学などを理解する。

（3-2-6）放射線診断において重要となる画像—病理対比を行い、各分野の放射線診断の本質を理解する。

（3-2-7）血管内治療(IVR)の知識・技術を学び、指導医の監督の下、実際の治療に積極的に参加する。

（3-2-8）放射線治療の知識・技術を学び、指導医の監督の下、実際の治療に積極的に参加する。

3-3 学習の方略（LS）および経験目標

3-3-1 日常業務として経験すべき検査および治療法

- 1) CT
- 2) MRI
- 3) 核医学
- 4) 血管内治療（IVR）
- 5) 放射線治療

3-3-2 LS

- 1) 放射線防護の3原則である「距離」「遮蔽」「時間」の概念を、実践の場で身につける。
- 2) 上記の各検査を担当し、診療科からの依頼内容を正確に把握し、電子カルテを参照する、あるいは各担当医に確認しながら検査・治療を決定する。
- 3) 担当する放射線技師に相談し、検査・治療の最終決定を行う。
- 4) 造影剤使用については急速静注を経験し、疾患、臓器、患者の状況に応じて造影剤を選択し、使用量、注入速度を適切に設定できる。また、造影剤の副作用について十分に理解し、副作用が生じた場合に迅速かつ的確な初期対応をする。その際に、看護師と連携をはかり、的確な指示ができることを目指す。
- 5) 放射線科カンファレンスの他、他科とのカンファレンスに積極的に参加し、臨床的なセンスを磨く。
- 6) 血管内治療（IVR）については、積極的に治療に参加する。
- 7) 放射線治療については、積極的に治療に参加する。

3-4 評価基準

臨床における画像診断について、症例に応じて適切に判断して検査を組み立て、読影レポートを作成できる基本的な画像診断能力（態度、技能、知識）が修得されたかを基準として評価する。

血管内治療（IVR）、放射線治療については、症例に応じた適切な治療計画が組み立てられるかを基準として評価する。

3-5 勤務時間

研修中の勤務時間、休暇などに関しては東邦大学医療センター佐倉病院の規定に従うが、勤務時間は原則的に午前9時から午後5時である。なお、検査・治療担当患者の状態、検査・治療の進行状況によってはこの限りではない。

カンファレンス、放射線科内の勉強会・読影会への積極的参加を推奨する。

3-6 指導体制

本プログラムの最終的な責任は、東邦大学医療センター佐倉病院放射線科の指導責任者にある。医局長をはじめとした指導医の下に配置され、マンツーマンでの指導が原則的に受けられる。

4 研修医個別評価

プログラム終了時、放射線診断、血管内治療（IVR）、放射線治療に適切に対応できる基本的な診察能力（態度、技能、知識）が修得されたかを指導医が総合評価する。